藤中優里

令和元年度卒業生
東京外国語大学言語文化学部英語専攻
海外経験：アメリカ（ロサンゼルス）現地校
（幼稚園〜小学校３年生・３年１０ヶ月）

江戸川女子中学校には、帰国子女のための英語の取り出し授業があること、また姉が通っていたこともあって入学を決めました。中学３年間の英語の授業は、私の場合先生１人につき生徒３〜４人で、クラスは親しみやすく、わからないところは遠慮せずにどんどん先生に質問できるような環境でした。そのため、苦手な文法事項も自分が理解できるまで説明してもらうことで、基礎的な英語力を固めることができました。

高校に入ると、私の学年から高校でも帰国子女の英語の授業が設けられることになり、ネイティブの先生と１０人ほどの生徒からなる少人数体制で、ライティングやリーディングを行いました。特に印象に残っているのが５、６年次の授業で、新しい先生とともに試行錯誤しながら授業を進めていきました。そこでは、最近のニュース記事をもとにしたディスカッション、授業で扱った本をテーマにしたエッセイの課題、アメリカ式のインタビューの練習など、大学に入ってから経験するようなことを先取りした、より発展的な授業によって、自分の英語力と向き合い、伸ばすことができました。特に私は、ライティングの課題によって英語で自分の考えを述べる楽しさを知り、英語の新たな魅力を発見するとともに、自分の進路の可能性を広げることができました。単に大学受験のためではなく、大学に入ってからのことも視野に入れた、英語を扱う力を伸ばすことに焦点をあてたこの授業は、私に英語を使う楽しさを再確認させてくれました。